

グループホーム森の家1階

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目）

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)				自己評価24項目・外部評価14項目	24	
理念に基づく運営	1 理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)			自己評価3項目・外部評価2項目	3	
	1 理念の共有	1 外部評価1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症についての講座や予防教室・啓発や広報・行事等の取り組みを通してグループホームや認知症への理解を深めて頂いている。認知症の方も地域で支え安心して暮らせる様、出来る力や残された力を発揮しながら主体的に社会参加できる様、生活の再構築を図れる様支援している。	1	地域との交流、行事やサービス資源の啓発や活用で、家庭の中で抱え込む事がない様に、入居者も地域の中に出てゆく機会を多くしたり、地域の中で活動する機会が持てる様に取り組んでいる。
		2 外部評価2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で、年間事業計画やグループホームの方針を討議し、理念に基づいた支援をしている。利用者の本意に添ったその方らしい楽しみのある生活が出来る様、必要に応じ繰り返しアセスメントした介護計画を共有し、意見や気づきで検討を重ねながら施設内外の種々な活動を通して生活支援をしている。	1	入居者が希望する主体的で意欲的な尊厳ある生活を送ることが出来る様、スキルアップの為の学習や研修・研鑽を重ね更なる理念の実践に取り組んでいきたい。
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会や地域の方との交流・予防教室・啓発・広報・意見交換等を通して、グループホームの理念や認知症への理解を深めると共に、地域で認知症の方を支えていく仕組み等を討議し実践出来る様取り組んでいる。	1	運営推進会議や家族会、又交流で出会った方や繋がりの中で、更に地域へ発進出来る事や利用者の生きがい作りに役立つ事は無いか模索している。
	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)			自己評価3項目・外部評価1項目	3	
	2 地域との支え合い	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	庭園は、近所の方が散歩をしたり、子供が遊びに来たりと自由に出入りをしている。施設の無料循環バスが発着し、気軽に挨拶や会話が見られている。町内会での清掃や花植え等の活動を共にしたり、夏祭りや餅つき等行事のボランティアを快く引き受けて頂いたり馴染みの関係が出来、入居者と楽しむ様子が見られている。	1	近隣の市場や、市民センターでの活動や図書館利用、なじみの喫茶店等に継続して社会参加を重ねていきたい。又、行事や啓発活動へ気軽に参加して頂けるよう関係を大切にし、更に輪を広げてゆきたい。
		5 外部評価3	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の職員出席、町内会活動、広報誌の回覧、地域の方による菊作り指導他ボランティア活動、行事の交流、幼稚園小学校との交流、実習生の受け入れ、近隣市場での買い物、施設の無料循環バスのサービス等で地域との親しい関係作りに努めている。	1	交流を深め、地域の中で利用者も一緒に活動する場を提供してゆける様取り組んでいきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地 え域 合と いの	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	学校や他施設、市の職員、民生委員、民間からの見学者や実習生を受け入れている。実習後は行事や活動にボランティアとして参加される事もある。又地域の方へ予防教室を開催し、認知症予防の取り組みを行っている。	1	北九州市が主催する認知症サポーターを養成する講座に参加しており、認知症の方を地域で支えるボランティアとして社会に還元する機会を得てゆきたい。又、無料循環バスの利用で啓発活動や地域交流等を模索し活発にしていきたい。
	3 理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7～11・外部 4～7)			自己評価5項目・外部評価4項目	5	
	3 理念を 実践す るため の制度 の理解 と活用	7 外部 評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に対する外部評価の結果を全職員に提示し説明をしている。反省点や次の課題を討議し、業務の見直しを行った。職員で意識やケアを統一し、利用者の生活の質を高めていける様取り組んでいる。	1	全職員で自己評価を点検し、課題に対する取り組みを検討している。意識の統一を図りケアを更に向上していきたい。
		8 外部 評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、活動や研修内容・事業の報告を随時行い、認知症の方を地域で支える取り組みについては、活発な意見交換がなされ、助言を頂いたり互いの立場での生活の向上に役立っている。委員の方が事例紹介や他の研修の場で発表されるなど、啓発活動に活躍される事もある。	1	委員それぞれの分野の知識や経験などを活かし、地域に根ざす開かれた施設を目指してサービスの向上に更に取り組んでいきたい。
		9 外部 評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市の介護サービス相談員派遣事業を受け入れており、入居者の苦情や不満や困っている事を掘り上げると共にグループホームへの客観的な意見を報告して頂いている。又、運営上・介護上の疑問点等を介護保険課窓口を利用し、解決の糸口にしている。	1	北九州市が主催している山田緑地での「森フォーラム」の実行委員をして協働参画している。
		10 外部 評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員や入居者家族を対象に、権利擁護や成年後見制度に関する研修を実施している。終了後は個別相談会を開き、質疑や悩みのある方に専門の方から支援をして頂いている。又、必要な方や希望のある方はいつでも応じられる様支援体制を整えている。	1	今後も権利擁護や成年後見制度に関する意識や学びを深める為の学習会を開催していく。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待に関する研修会を実施し、介護や接遇での言葉遣いや態度に潜在する危険のある虐待の予防に努めている。入居者の転倒・転落他危険防止のための必要策を設ける際は、家族に説明をし、同意書を頂く様にしている。	1	虐待行為を発見した場合の対応方法についても学習を繰り返し、周知徹底し意識向上に努めたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 理念を実践するための体制(自己 12～18・外部 8～10)			自己評価7項目・外部評価3項目	7	
	4 理念を実践するための体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、入居者及び家族へ契約書や重要事項説明書を提示し、説明を行い質疑の納得を得た後、同意書に確認印を頂いている。契約時は事業所の出来る事出来ない事や解約に関する事項について説明している。契約改訂で変更の際は文書で根拠を示し説明・納得を得ている。	1	契約時の不安や疑問点や相談は、入居後もいつでもお受けできる旨を伝え、丁寧に対応しながら家族との信頼関係を築いていきたい。解約に関しては互いに十分に検討・討議を重ね、納得のゆく配慮で進めてゆきたい。
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	尊厳をもち遠慮のない信頼関係を築ける様密にコミュニケーションを取り、心身共に快適な暮らし方が出来ているか、意志を伝え難い方の表情や行動からも心情を推し量れる様よく観察した上で介護計画を作成し、本意に添える様支援している。いのちの電話や介護相談員の受け入れがあるが、家族や関係者からも声を拾える関係作りを目指し	1	何気ない会話の中にも思いや意見がある場合もあり、受け流す事が無い様会議等で取り上げ原因究明や検討を行ってゆく。文書で意見投稿できる事も常に伝えていく。
		14 外部評価8	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に面会や受診時に医療や生活の近況報告や情報交換を行っている。又入居者自身の絵や手紙で便りをする事もある。定期的に出納帳の提示をし、確認印を頂き出納帳コピーと領収書を提供している。家族会では生活や活動の様子などを報告し、個別にも同様の対応をしている。	1	季節発刊の「森の家だより」を配布している。又、ホーム内で撮り溜めた写真は家族が来所された際に楽しめる様、順次整理していきたい。
		15 外部評価9	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に設置した意見箱の利用や苦情相談窓口、外部による苦情受付機関、いのちの電話や介護相談員の受け入れをしている事を伝えている。家族会や面会・電話にても日頃から相談や質問・苦情がないか問いかけ、どんな事でも遠慮なく伝えて頂けるよう信頼関係を築く努力をしている。個々の相談には速やかに対処し改善に繋げ記録に取って	1	意見や苦情があった時は取り組みの事実を家族会等で報告し、更に検討を重ねる等前向きにとらえている。
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受け入れや入居継続の可否については全体会議（検討会議）で職員の意見を聞き検討され決定するようになっている。又、月1回の職員会議或いは必要に応じて話し合いや報告の場を設け、現場での活発な意見交換が行われている。提案事項は内容により応じた現場で生かされている。	1	職員1人ひとりの日常の中から生まれた意見や情報・新鮮な視点に立ったアイデア等が、サービスの質を高める事に繋がった例が多々ある。意見を出し合える環境を作り、出た意見を大切に運営に反映していく（スタッフ会議や申し送り時等）
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族の方の心身の状況・変化等を把握し、特変や緊急時に対応できる様、情報を共有している。勤務や休憩時間はその時の入居者の状況に合わせた臨機応変なローテーションを職員間で検討調整し実施している。	1	職員会議や申し送りで、入居者や家族の方の状況の変化や、特変や、異常時の予測を行い、速やかな対応が出来る様に申し合わせを行っている。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 理 念 を の 実 体 実 践 制 す	18 外 部 評 価 10	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から職員とのコミュニケーションをしっかりと取り、管理者を通し状況を把握する。やむを得ず離職になった場合も引き継ぎ期間を充分取り、細かく申し送りをし、ダメージが最小限になる様配慮している。職員移動は極力少なくし、馴染みの関係で関われるようにしている。	1	今後もスタッフの思いを吸い上げる努力をし、離職の無い様に職場環境を整えてゆく。
	5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)		自己評価6項目・外部評価4項目	6	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19 外 部 評 価 11	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用募集にあたっては、性別や年齢を理由に採用対象から排除することはない。又、差別無く安心して働ける職場環境を整えている。職員については、着付け・陶芸・料理等、各々の得意な事を仕事に活かしてもらっている。	1	採用時、着目するポイントは、表情（笑顔）、言葉遣い、認知症の方が感じていることや思いを感じ取れる感性、認知症の方の残存機能を引き出す感性があるかないかに着目している。
		20 外 部 評 価 12	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者及び職員共に基本的人権が尊重されるべきである。人権擁護に関する資料を職員に配布し自己学習後に研修を実施し、あらゆる人権問題に目を向け理解していくよう取り組んでいる。意識を高め、日常の中で入居者に対し人権を尊ぶ関わりをするよう啓発している。	1	人権の尊重はひと時も軽率に取り扱われる事ではない。自身を大切にすることを他人に対しても持つ事が出来るよう、人権に対する意識向上を図っていく。人権研修は定期的な研修とする。
		21 外 部 評 価 13	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、サービス向上委員会を中心に年間計画を立て実施している。グループホーム協議会研修やその他の法人研修についても、積極的に参加し、その都度、他の職員にも、内容報告をしている。参加は、パート・正職の差別はない。	1	年2回、介護技術個人チェック表を付け、管理者及びリーダーは、個別現場実習計画を立て、全ての項目、出来る事を目指している。又、年2回自己評価表記入にて、自己を振り返る機会とし、管理者と共に、一人ひとり助言育成に関わっている。
		22 外 部 評 価 14	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会・福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しており、他のグループホームと交流しながら現状の課題や悩みを話し合う機会がある。	1	福岡県グループホーム協議会では、県全体と北九州ブロックの研修がとても盛んで、質の向上に繋がっている。年1回の実践報告会での発表も職員の意欲向上に繋がっている。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	週休2日制で、大体月に9日～10日の公休があり、ゆっくり身体を休めリフレッシュする時間をするようにしている。休憩場所は、利用者と離れたスタッフルームにて休憩している。	1	利用者についての介護相談は、毎朝の申し送り、カンファレンス以外にも、いつでも話し合える様にしており、一人で抱え込まないように配慮している。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断は定期的に実施している。体調不良時は併設病院にて受診、治療は法人が負担している。また、就業規定があり、職員の労働基準は守られている。	1	各委員会（サービス向上委員会・感染委員会・アクティビティ委員会）があり、責任を持って各々が積極的に取り組んでいる。又、自分たちの取り組みをまとめ、早期認知症学会やグループホーム協議会実施報告会等、毎年発表し意識の向上を図っている。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2 (自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 10 項目・外部評価 2 項目	10	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価 4 項目・外部評価 1 項目	4	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	概要説明後、庭園や畑を案内し、自然を目にする事で安心感を得て頂いている。リラックスした雰囲気の中で本人の現状を把握してゆき、不安や求めている事等、気持ちを良く傾聴し依頼関係が持てる様努めている。	1	入居による環境の変化に対応出来る様、利用者の話をよく傾聴し行き違いのない様に関わりたい。
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームの概要説明を行い、見学をして頂いている。リラックスした雰囲気の中で本人と家族の思いや関係性はどうかの現状の把握に努め、求めているニーズや気持ちをよく傾聴し信頼関係を築く事が出来る様努めている。	1	家族と本人のニーズを区別してよく傾聴し、現状の把握に努めていく。
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容がグループホームとニーズに合っているか困っている事や要望等を確認しながらよく傾聴する様にしている。当施設にはデイサービス・ケアハウス・病院が併設し、各相談員・ケアマネジャーがあり、関連施設に介護老人保健施設・訪問看護ステーションがあり、必要に応じた選択に繋げやすく、紹介もしている。	1	ニーズに対し出来る限りの対応に努めているが、必要に応じて関連部署や施設の相談員や地域包括支援センターに繋げながら連携を図りサービスに伝えていきたい。
		28	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に十分な状況把握を行っているが、希望により日中の体験利用や宿泊体験もして頂いている。当グループホームの現状に馴染んで生活出来るかどうかをお互いに検討し、安心して利用頂く為段階的な支援をしている。入居後も徐々に馴染んで頂ける様、面会をお願いしたり、本人のペースを大切に過ごせる様関わっている。	1	利用者の現状に合わせ、本人の元に出向いたりホームに遊びに来て頂ける様お誘いしたり、馴染みの関係作りをしながら支援していきたい。
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価 6 項目・外部評価 1 項目	6	
	係り2 と新 継続た これな へのま までの 支援係 のづく 関	29	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や生花・畑仕事・おやつ作り等の得意分野に働きかけたり、筆で案内文を書いて頂いたり、市民センターの講座に出かけたり、クラブ活動と一緒に習ったりしている。共に作業をする中で楽しみや感謝や感動を共有・共感し、支え合う関係を築いている。	1	生花や料理・俳句作り・習字等昔、馴染んでいた一連の行為は、生活の再構築が出来、記憶が薄れる事が無い様、共感しながら一緒に楽しめる様大切に一日を積み重ねていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換は申し送りや会議等でケアの統一を図っている。面会時、他の入居者や家族の方と交流を図ったり、洗濯たみや散歩や活動を共に楽しんで頂く事も多い。役に立ちたいからと自発的に行事や活動のボランティアをかって出る方もある。	1	思いや時間のある家族の方が、入居者と共に取り組める事がないか更に検討し取り組んでいきたい。
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や外出・外泊・行事・活動等で自由な交流が持てる様支援している。面会時はホーム内での茶話会や居室・リビングでの寛ぎ、庭園の散歩や入居者と共に活動をしたり併設の喫茶店の利用を勧めたりしている。又、家族と一緒に写真を収めたり、遠方の家族への暮らしぶりの分かる絵・手紙や写真を送付したりする事もある。	1	疎遠になっている面会の方には、絆を大切に、写真を撮って差し上げたり、思い出の場面作りを心掛けている。
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚・友人・併設施設での馴染みの仲間との面会や交流が自由になされており、楽しいひとときを思い思いに過ごしている。遠方の家族や懇意にしている方からの電話や手紙を取り次ぎ支援している。行きつけの美容院や散髪屋・病院・お店等での触れ合いが途切れない様支援している。	1	入居者を取り巻く人や支えてきた人達の情報を知り、付き合いが継続出来る様、電話や季節の手紙等で繋がりを支援していきたい。
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格の合いそうな方との仲間作りを支援したり、孤立しない様間に入って代弁したり、ハンデを持つ方も一緒に暮らしている事を理解出来る様支え合いを支援し、活動や団樂等で楽しみを持てる様、感謝や譲り合いの気持ちを持てる様関わっている。	1	認知レベルや性格の合いそうな入居者同士が馴染みの関係で支え合える様に仲を取り持ち、孤立せず穏やかに暮らせる様、席や活動の場に配慮しながら取り組んでいく。
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の家族が施設内のボランティア活動に足を運んで下さっている。又、空き状況や知り合いの方の入居について相談があり応じている。県外の郷里に帰られた元入居者の家族との音信、森の家の季刊誌を届けている。	1	併設の西野病院に転院した入居者の家族とは、付かず離れずの交流が保てている。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	17	
	1 一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)			自己評価 3項目・外部評価 1項目	3	
	1 の 一 把 人 握 ひ と り	35 外 部 評 価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別特性シート・バックグラウンドシートを活用し、生活歴や経験を活かせる機会が多く持てる様支援している。趣味や得意な事が披露できる場面作りをし、生活の再構築に努めている。困難な方の行動や表情をセンター方式の一部を活用して思いを汲み取る努力をしている。	1	本当にしたい事や本当の希望、家族の願いやその人らしさに少しでも近づける様、関わる家族や友人、全ての職員で、言葉に出来ない入居者の思いも汲み取る様にし、サービスを形にしていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別特性シート・バックグラウンドシート・出来る事シート・分かる事シート等を活用し、趣味や家事・地域を含めた活動等で得意分野や役割を通してその人らしさを発揮出来る様支援している。その方を知る方からの小さな情報もアセスメントしながら全体像を推し測っていく様にしている。	1	生活歴を把握できない場合は家族の許可を得ながら昔をよく知っている親類や友人・近所の人達に丁寧に働きかけて、情報を伝えて頂けるように努めたい。
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後や退院後・特変時は1日の時間を追った行動記録表を作成して、体調の変化や生活パターンを把握し、支援に役立てている。1日の生活リズムを把握し、暮らしの中で出来る事や解る事等の気付きや情報を申し送りや会議で検討・共有し、残っている力を引き出せる様に関わっている。	1	関わる職員が常に感度を高くして家族や取り巻く方々と気持ちを一つにして全体像を把握し、出来る事や分かる事・興味ある事を常に引き出していける様対応・検討し、気付きに結び取り組んでける様にしたい。
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38～40・外部 18～19)		自己評価3項目・外部評価2項目	3	
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族・医療関係等の情報から生活歴を知り、アセスメントした事柄を生活の再構築が出来る様に具体的に明確な支援を組み立てている。本人や家族の意見や希望を確認し、役割や趣味活動等でその人らしさが出る様に、意見が反映された介護計画を作成し本人家族から承諾のサインを頂いている。	1	心身に変化があった時は、家族や本人を知る方からも気付きはないか、生活や医療に関する意見や希望・情報・リスク等を共に再検討し、介護計画に反映していきたい。
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、又、入居者の心身状態に変化があった時等、随時モニタリングを行ない、介護計画の見直しや変更をしている。家族の方にも確認して頂き、意見や意向に添った見直しで、現状に合ったものを作成している。	1	介護認定の期限切れで新たな変化や要望が見られない場合も見直ししていく。介護計画が現状のケアサービスとずれていないか随時確認していく。
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の医療内容や心身の変化は看介護記録簿にSOAP方式で記述し、当日の活動は活動記録簿に、気付いた場面や様子を具体的に記録している。又、活動の様子を写真に収め介護計画に記録として残す様にしている。	1	介護計画が、具体的なケア内容の見える物で様、又、次の実践にどう活かされているのか分かる様に常に検討・工夫を重ねていく。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)		自己評価1項目・外部評価1項目	1	
	3 多機能を柔軟に活用	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護事業所による24時間医療連携体制を整えている。週1回の訪問看護による健康観察や医療相談、又入居者の状態に応じた看護処置等を実施し、本人や家族職員の安心感を得ており、入居者とも馴染みの関係が築けている。入居者の入院時は訪問看護と共に医療機関・家族と検討しながら早期退院に向け支援をしている。	1	重度化や終末期のあり方が本人・家族にとって後悔の無い穏やかなものである様、事前に或いはその時々で医療機関・家族と密に連携を取りながら希望に添えるよう一緒に検討していく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42～51・外部 21～22)		自己評価 1 0 項目・外部評価 2 項目	10	
	4	42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署による防火訓練、商店からの移動販売（野菜・果物・ミニストア）、移動理容室、市民センターの図書館利用、SOSネットワークの協力体制、他民生委員やボランティアにより、グループホームの取り組みや啓発への理解をして頂き協力を得ている。	1	更に理解・協力をお願いし、地域の中で一緒に出来る事は無いか探していきたい。
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者や家族の意向に応える様併設病院や施設の相談員やケアマネージャーと連携を持ち、ニーズに合った選択が出来る様関わっている。又訪問マッサージや福祉用具の事務所の紹介・クリーニング・遊園地、他公共の交通機関等を利用している。	1	生活歴を探りながら希望を見出す努力を重ね、地域の中で活動し社会参加出来る様に他のサービス事業者と連携し、何が出来るのか検討し質の向上に繋げていきたい。
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員に地域包括支援センターの職員が参加されており、グループホームや地域での実情に対し問題提議された事や事例を通して意見交換し、各参加事業所・民生委員や参加者と共に協働していている。相談や心配事の解決に結びつく資料を頂いたり個別の相談に応じて頂ける体制がある。	1	権利擁護や認知症のサポーター養成講座・長期的なケアマネジメント等、認知症を地域で支える為の専門知識や解決策は地域包括支援センターの応援を頂き、連携を図りながら取り組んでいきたい。
		45 外部 評価 21	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や希望する医療機関を最優先して頂いているが、無い時は併設西野病院が利用出来る事を説明し、医療の協力病院の利用についても入居時や適時、家族に伝えて、納得出来る受診をして頂いている。受診後の情報は家族と共有し、状態の把握に努めている。	1	家族が受診に付き添う際は、情報をメモにして伝達している。都合によりスタッフが付き添う場合は、受診前・受診時・受診後の様子等を詳細に電話連絡をし、経過や検討した事を記録に取っている。
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設西野病院の物忘れ外来や福岡大学病院の知見に詳しい専門医による受診が出来、適切な薬の処方や生活面での関わり方等助言を頂いている。又、認知症に理解のある協力歯科医院に状況に応じた往診をして頂き、入居者・家族から信頼を得ている。	1	併設西野病院では定期受診や異変時等適時、専門医による受診や相談をさせて頂き、状況の把握をして頂いている。認知症の方と馴染みの関係にある訪問看護ステーションとも連携して安心や信頼を得ている。
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間連携で訪問看護師による入居者の健康管理を行い、週に1度の健康観察で日常的な心身の状態把握をし、馴染みの関係が築けている。又、介護職で出来ない医療処置や判断に戸惑う医療・生活の相談に応じて頂いており心強さがある。医療に関わる生活相談は24時間可能で、入居者とも馴染みの関係が出来、信頼を得ている。	1	入居者の現状に応じた病気の知識や事故の手当て、医療や介護のリスク等のミニ研修も実施しており、スキルアップに役立てている。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の目的を早期達成して頂ける様、家族と医療機関や相談員と情報交換し、スムーズな退院に繋がる様検討を重ねている。入院中のストレスや精神不安の軽減が図れる様、馴染みの入居者・職員で面会をしたり、併設西野病院であれば、機嫌に応じてホームに遊びに来て頂く等交流をしている。	1	併設西野病院は庭園の延長にある為、馴染みの入居者も散歩がてらに見舞いに行っている。入院の経過や、退院後のケアについての情報交換もスムーズに実施出来ている。
		49 外部評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化の指針について文書を配布し、重度化や終末期に対する意向をアンケートして頂き確認をしている。状態の変化を家族と共有し、関係する医療機関や24時間訪問看護医療でのきめ細かな連携、職員会議等で意識やケアの統一を図れる様にしている。	1	終末医療に関する研修会に家族の方も参加して頂き、事例や予測を通して、医療に関する事やホームで出来る事や家族で出来る事等、意見交換を行っている。
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態の変化や緊急時に適時対応出来る様、細やかな様子観察を行い、病気に対する知識や予測を行う研修でケアの統一を図っている。又、家族や本人の意向を確認しながら、対応可能な事は最大限に支援し、困難な事や出来ない事への早めの検討を重ね納得を得ながら模索して取り組んでいる。	1	他の入居者の影響も念頭に入れ、ホーム側のみでなく家族の出来る事・出来ない事も見極め、本人の意に添える最大限の支援をしていきたい。
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え先との連携や情報交換を、相談員やケアマネージャー・家族と共に検討している。築いた生活の再構築等は、継続出来る様にケア情報を記録した看介護サマリーを用いて詳細に伝え、配慮して頂けるよう働きかけている。	1	訪問や電話やFAXで医療や生活の個人情報を伝え、検討を重ねている。本人や家族の意向を確認しながら環境の変化による混乱を軽減し、スムーズに移行出来る様支援している。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価3 8項目・外部評価1 1項目	38	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)			自己評価3 0項目・外部評価9項目	30	
	1 その人らしい暮らしの支援	(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)		自己評価3項目・外部評価2項目	3	
		52 外部評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報についての研修があり秘密保持について周知している。人権研修も繰り返し実施し、言葉掛けや態度に尊厳がある接遇が出来ているか再確認し、意識付けをしている。又、職員は人権の尊重について自己評価を行い、自分自身を振り返る機会を持っている。	1	気付かないうちに入居者や家族の事を話してしまったり、意識していても業務の流れに任せて心ない言葉掛けや介護をしていないか、自身を振り返る為に繰り返し人権や接遇の研修や個人情報について学び、意識の向上を図りたい。
		53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	家事活動・趣味やクラブ活動で、具体的にしたい事を自由に選択して頂ける様関わっている。又、日常の洋服選び・化粧の有無・入浴時間・嗜好品等自己決定の場は多くあり、良い表情を引き出せる様場面作りを支援している。	1	選択しやすい様に意見を傾聴しているが、言葉で表せない方の表現や態度から好みや希望を汲み取れる様、職員の都合になっていないかを省みて、本意に添える生活支援をしていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や生活リズム、日頃の様子に配慮しながら、家事や趣味やクラブ活動等したい事や好きな事を選択し、自由に楽しんで頂いている。家族との外出や面会を入居者のペースで色々楽しんで頂ける様情報交換、コミュニケーションを密にし、門限も特にならない。	1	職員の業務や都合にならない様、入居者本意である事を意識して、したい事が個別のペースで楽しめる様見守りながら一緒に生活していきたい。
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	6	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者のレベルに応じた声掛けやお膳立てで支援をしているが、外出や行事の際は普段しない方へも化粧やおしゃれに関心が持てる様に声掛け支援し、周囲の方々と共に装いの気付きを語らい和んでいる。訪問美容室や行きつけの理美容院で希望の髪形に整え喜ばれている。	1	普段着が片寄らないよう、おしゃれに気を遣い、心地よい日常を過ごせる様支援していきたい。重度の入居者もエステや化粧・おしゃれで良い表情が見られている。
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭園で育て収穫した野菜も使用し、献立作りや調理方法・昔話や季節の話題に繋げている。時折買い物も共にし、準備や調理・食事・片付けまでの一連の流れを一緒に行い、役割分担や得意な作業で調理を自由に行って頂いている。食事は和やかな雰囲気作りを心がけサポートしながら同じ食卓で同じ食事を頂いている。	1	体調やその日の生活リズムに配慮して、本人のペースを大切に、楽しい作業になる様に対応していきたい。
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外出や行事でビールやワインを嗜み、表情を良くする入居者がある。おやつ作りでは入居者に合わせて刻んだ物や柔らかい物を提供し、好みの飲み物を選択して頂いている。併設の売店や移動販売で果物や菓子・嗜好品の買い物自由にしており、個別に対応し支援をしている。	1	遠慮なく馴染みの嗜好品を手にする事が出来る様支援していきたい。煙草に関しては、施設内禁煙であり、他者への配慮や防災に注意しながらルールに添って職員が関わりながら寛いで頂く様にしている。
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	状況に応じ個別の対応をしている。紙パンツやパットは、体調や外出時・夜間帯の加減で検討しながら使い分けている。体調不良時は排泄チェック表を活用し、排泄調整や誘導に役立てている。失禁対応はさり気なく行い清潔保持に努めている。	1	現状に合った排泄支援をしているか常時検討・確認しながら、オムツ使用に至らない暮らしが出来る様見極めていきたい。
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	状況に応じた個別対応で、安全に入浴を楽しめる様見守りや介助を行っている。希望に応じ2人で入浴したり、シャワー浴であったり、順番を選んで頂いたり入浴剤に変化を付け、花卉やユズ・菖蒲を入れたり、入浴できない日は清拭や足浴を行っている。入浴拒否には場面転換や個別対応で工夫をしている。	1	職員の都合で入浴が困難になる事があるが、翌日のチームプレイや個別支援で入浴を楽しめる様配慮していきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方を考慮しながら昼夜のメリハリを付け生活リズムを整える様心掛けているが、その時の体調によっては不眠もあり、その方に応じた会話や足浴・お茶等で良眠に繋がられる様支援している。体調不良や1人でいたい時は自室で休憩して頂く等自由に過ごして頂き、散歩や活動後はお茶等で一服し落ち着いて頂いている。	1	不眠の原因が関わる職員の側にないか、入居者の生活環境を乱すものはないか等よく洞察し、医師や訪問看護にも相談しながら解消に繋げたい。
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61～66・外部 27～28)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	6	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や好み・趣味に応じた活動の選択をし、自由に参加して頂いている。又、外食やドライブ・カラオケ等様々な楽しみ事を提供し、得意な事や好きな事で力を発揮して頂いている。花や植木の水やり・生け花・畑の世話・食事作りや洗濯物たたみ等、役割意識を持ち自発的に活動される事もある。	1	家族や入居者に近い方の記憶を引き出し、潜在している楽しみ等を更に見出していく。又、地域の中にも出てゆき、感性を刺激した豊かな生活支援をしていきたい。
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を管理している入居者もあり、持つ事で安心感があつたり菓子等を購入して楽しんでいる方もある。買い物に同行して頂き個別に支払いをお願いしたり、馴染みの入居者同士にお任せしたりと、その方に応じた財布の取り扱いの支援をしている。	1	外出や買い物・馴染みの店での店員との会話等で社会との繋がりを大切にし、入居者の出来る力に合わせた支援を工夫し、楽しみのある生活をしたい。
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内は毎日の庭園散歩や併設西野病院の売店や喫茶店の利用が出来、気分転換を図っている。入居者の希望を引き出しながらスーパーや百貨店へ買い物に行ったり美術館や公園や海や山・外食等外出の機会を作っている。	1	家族との自由な外出や外泊も勧めている。生活歴や興味のある事・好きな事等アセスメントし、言葉で表せない方や車椅子の方の体調や表情を観察しながら外出支援を継続していきたい。
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたく普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方へは入居者との思い出作りを働きかけている。家族の方へは入居者・家族の家に宿泊したり馴染みの方に会いに出かけたりお墓参りや遠方へ外出する機会がある。又、歌舞伎やミュージカルを観に行ったりと楽しんでいる方もある。	1	入居者の家族の個別の希望が実現出来る様によくコミュニケーションをとり、些細な事ででも支援に繋がられる様配慮していきたい。
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の誕生日や記念日に手紙や小包・電話があり、折り返し御礼の電話やハガキを送っている。遠方の家族や親族・近しい方との関係が途切れない様、取次ぎの支援をしている。又、季節の挨拶状や絵手紙を、出来る力に応じて職員も補足しながら個別に支援している。	1	頻度の少ない入居者もあるので、家族と本人の関わりに丁寧に働きかけながら楽しみが持てる様支援していきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会は時間に決まりはなく、自由に来所して頂き笑顔で出迎え、遠慮なく寛いで頂ける様案内している。敷地内の喫茶店やホーム内の茶話会・散歩・活動の自由な参加で共に楽しんで頂いたりしている。入居者の個室に宿泊される事もある。	1	訪問の際、いつでも居心地良く自由に過ごす事が出来る様、職員との温かく遠慮の無い関係を持続していける様コミュニケーションを密に対応していきたい。
		(4)	安心と安全を支える支援(自己 67～74・外部 29～30)	自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	8	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や抑制廃止について研修を行い、弊害やリスクについての意識向上を図っている。車椅子や歩行困難な方の見守り外での移乗行為や転倒・転落・認知力不足の為の危険行為回避について、リスクや工夫を常時検討し、訪問看護や医師・療養士等への相談と共に対応に取り組んでいる。	1	対応困難で安全第一に配慮した場合、家族への説明と同意を得て拘束せざるを得ない事もあるが、職員が弊害やリスクをよく理解する必要がある。
		68 外部 評価 29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかける事はない。玄関はチャイム音で人の出入りが解る様にしており、入居者の所在確認は常に意識している。施設部署間の連携で離苑者への見守りを実施し、離苑でホームに戻れない方がある時は、家族と検討し、SOSネットワークへ協力依頼も行っている。	1	近隣でのなじみの関係も増えており、離苑者を見かけた際の思いがけない声掛けや連絡を頂く事があり、地域との繋がりを大切に生活したい。
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日頃の関わりを密にし、職員の見守り外に居る入居者の所在確認と度々の声掛け等で、常に入居者の現状把握をしている。精神状態や行動で予測・察知をし、五感を働かせてリスクに対する意識を持ち安全に配慮をしている。	1	入居者の心身の状態で行動の見守りを行い、職員の連携で全体が見守れる様安全に配慮していく。
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品の保管に関するマニュアルに添って危険を防ぐ配慮をしている。入居者の自発的な行動を妨げる事がない様物品の把握をしつつ、見守りながら鋏・包丁・洗剤等を自由に使用して頂き、使用后や夜間は目に触れない様、場合によっては施錠保管している。	1	入居者の現状に合わせて歯磨き粉や芳香剤・鋏等を自室でも使用しているが、本人が気付かない所で在庫や所在の管理をさせて頂いている。
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時・事故発生時の対応マニュアルがあり、研修や職員会議等で学習を繰り返し、周知徹底を図っている。ヒヤリハットでの気付きや検証を職員会議や申し送りで行い、事故に至らない様に取り組んでいる。事故発生時は原因究明と防止策について全職員で検討・考慮し、再発防止に繋げている。	1	入居者の心身状態は変化しており、ヒヤリハットや小さな気付きで個別の緊急性や危険の予測を具体的に詳細に検討し、事故防止に取り組んでいる。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による研修で、誤嚥や病気・事故での意識不明・心肺停止時の救急手当や応急処置について定期的に指導を受けている。又、病院受診の無い休日や夜間帯の緊急時の速やかな対応の為、緊急時や行動分担のマニュアルを作成している。	1	職員会議で緊急時や事故を想定して対応の確認をしている。又、施設内での研修は、全員参加し、繰り返し実施している。緊急時連絡網も随時見直しを図り作成している。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内に避難経路や避難場所・職員の行動分担表や緊急時連絡網を掲示している。防災管理者による年間消防計画を行い、入居者と共に避難訓練等を実施している。又、災害時の食料や備品をホーム内に準備し、いつでも対応できる様にしている。	1	日頃から交流のある町内や地域の方々も参加して頂き、本番さながらの避難訓練を定期的に継続して実施しながら、もしもの時の意識強化に繋げていきたい。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者の心身の現状態は、面会時や電話等で家族と情報を共有しているが、予測される危険やリスクや対策についても十分に検討し納得して頂いている。抑圧感や苦痛の無い生活を模索し、対応困難な場合の抑制については同意書を得て対応し観察の経過を記録する様にしている。	1	入居者一人ひとりの現状に添った緊急時や危険のリスクについて、家族と共に検討し対応策を考慮しておきたい。
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価 7 項目・外部評価 1 項目	7	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝及び入浴前等のバイタル測定や週に1度訪問看護による健康観察・個別の定期受診で心身の変化や異常の発見に努めている。個別の医療情報や異変のリスクを把握し、認知や精神状態を家族と共通の認識を持てる様、面会時や電話等でコミュニケーションを図っており、緊急時や特変時は速やかに医師の指示を仰いでいる。	1	普段の顔色や様態に注意し、小さな変化や兆候を見落とさない様、気付いた事は記録にも取っている。早期発見し早期治療に繋がられる様取り組んでいる。
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状や処方内容は、医師の説明や調剤薬局の情報で全職員が把握し、職員会議や申し送りでも再確認している。処方薬は分包から服薬後まで4回の確認作業を行い誤薬や飲み忘れを防止している。服薬状況や症状の経過はカルテに記録し、異常や特変の早期発見に努めている。	1	排便コントロールの為に、服薬状況と排便情報が分かる記録表を作成し調整に役立てる事もある。入居者が服用している処方薬についての学習も継続して重ねていきたい。
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の体操や散歩やゲーム等で心身の機能の維持・向上に努めている。活動前後は水分補給をし、牛乳やヨーグルトや繊維飲料を使い分けている。食事は根菜類や繊維質の物や水分量に配慮し、入居者個別の自然排便を促し便秘予防を意識した食事作りを心掛けている。又、週に1度の訪問看護で腹部や腸の動き等を確認している。	1	入居者を個別に排便傾向の把握をし、便秘の時は原因を探りながらなるべく自然排便を促せる様、食事や水分・運動量を省みながら調整していく様に取り組んでいる。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はその方に応じた個別の口腔ケアの声掛け・介助を行い、義歯洗浄や保管も個別に支援をしている。口腔内異常時は併設西野病院や協力病院の歯科の往診が可能。又、口腔ケアに関する研修も実施されている。	1	入居者の出来る力を見極めながら歯磨きの習慣を継続し、残っている歯や義歯の清潔に努めたい。口腔に関する研修会を定期的に受講して、手入れの必要性の理解や周知を図ってゆく。
		79 外部評価 31	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量はカルテに記録している。およそのカロリーが摂取出来る様、検査等を通して職員の高齢者用の食事意見を反映させている。献立は栄養士の助言も受け、できるだけ多種の食材をバランスよく水分共に摂取出来る様配慮している。定期受診で栄養値の測定を実施し、低栄養時は補助食品も取り入れている。	1	栄養の偏り・水分不足にならない様、又症状に応じた食事提供をしていく為、今後も栄養士や訪問看護師の助言を得ながら取り組んでいきたい。
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染委員会が設置され、時節に応じ疥癬や白癬・食中毒・ノロウイルス・インフルエンザ等の対策の為に研修や職員への周知をしている。又、常時手洗い・うがい・換気・環境整備を心がけ、感染予防に注意している。	1	保健所等との連絡や伝達事項で、流行への情報は全職員が周知し早期に対策する様、徹底を図っていく。
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板・布巾・調理器具は毎日除菌作業を行っている。又、冷蔵庫の整理点検・排水口の清潔・環境整備は主に夜勤帯で毎日実施している。食材は新鮮な物を必要な分だけ購入し、賞味期限・消費期限内に使用し無駄にならない様努めている。	1	冷蔵庫や食品庫の整理整頓・清潔保持に注意し、感染症等の温床にならない様気をつけていきたい。
	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)～(2) (自己 82～89・外部 32～33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	8	
	2 生活の環境らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82～86・外部 32～33)		自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	5	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の無料循環バスが施設内の入り口で発着し、地域の方々が病院の受診や各欄への訪問やホームへの面会等に利用して親しまれている。ホームの玄関口は入居者が手作りした表札やのれん、靴箱等があり、育てている植木や草花が建物の堅さを和らげ、気軽に入れる雰囲気を作っている。	1	大きな敷地の閑静な建物のイメージにならない様に気軽に立ち寄れる温かい雰囲気作りをしていきたい。
		83 外部評価 32	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム周辺は静かな環境にあり、共有の空間は程良く開放的な温かさがある。無意味にTVを付けている事は無く、食事中は穏やかな音楽を流し食卓には庭の草花を飾り季節感が溢れている。入居者との会話で不明瞭な発音や高い声を発していないが注意を払っている。	1	リビングや窓から見えるベランダや畑に季節感が感じられ、五感が刺激され情緒溢れる快適な暮らしが出来る様環境を整えていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い 思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家事の好きな入居者が台所作業をしたり、入居者 同士が協力してパズルを完成させたり談笑した り、ソファで編み物等にふけていたり、居室で 一人で過ごしたりと、自由にして頂いている。自 ら動じる事が出来ない方も表情や体調を確認し ながら他者との輪の中で過ごしたりしている。	1	一人ひとりのその時々がその人らしく活動出来る 様見守り、支援していきたい。
		85 外部 評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣 れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような 工夫をしている	自宅で使用し身体に馴染んだベッドや思い出のあ るタンス等を利用して頂いている。TVを置いたり お気に入りの装飾品や家族の写真等を飾って、入 居者の安心した生活に繋げている。散歩で摘んだ 草花を飾ったり、活動での作品を飾ったり、生活 用具として使用したりして、その方らしく快適に 暮らして頂いている。	1	その方らしい部屋作りの為に、家族の方と共にい つも新鮮な気持ちで支援していきたい。
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節 は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこま めに行っている	冷暖房は外気温との差に配慮し、冷房の使用は控 える傾向で「ドライ」で室温調整する事が多い。 各居室の窓はよく開放し室内の換気を行い、空気 のよどみや匂いの無い様に配慮している。	1	季節毎の空調や換気扇の掃除もこまめに行い、カ ビの発生や体調の乱れの原因にならない様にし たい。
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87～89)		自己評価 3 項目	3	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	玄関から床の段差は無く、廊下や浴室・トイレに 手すりを設置し、浴室やトイレの床に滑り止めの 配慮がある。浴室・トイレ・各居室にナースコ ールを設置、台所には車椅子対応の流しがあり、身 体機能の変化に配慮した支援をしている。	1	環境整備し、家具の配置や電気コード等が元で転 倒に繋がらない様注意する。又、個別に出来る事 を見極め、危険が無い様自立支援をしていき たい。
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮 らせるように工夫している	自室が分かる様、居室の入り口の小窓に自分の物 と分かる馴染みの物を飾ったり、自作の表札やお 気に入りの作品を飾ったりして目印にしている。 居室のトイレに分かりやすい表示をしたり、入 居者に応じた馴染みの物品を備えたりと、使い勝 手が出来る様支援している。	1	壁の汚れや物品の散乱により認識の間違いや混乱 を誘発しない様、清潔保持や環境整備に努めてい く。
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように 活かしている	敷地は緑の景観に恵まれ、ほぼ毎日散歩や畑作業 に出ており、野菜の手入れや収穫を日常的に楽し んでいる。中庭で体操やゲーム・昼食会・茶話会 をする事も多く、入居者の気分をほぐしている。 ベランダは草花の水やり・洗濯物干し場として活 用している。	1	季節感や五感を活かし快適に過ごす為、継続して 入居者や家族や馴染みの方・地域の方と共に楽し める場として活かしていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取 り 組 み の 成 果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サ ー ビ ス の 成 果 に 関 す る 項 目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2 / 3 くらいの 利用者の1 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3 くらいが 利用者の1 / 3 くらいが ほとんどいない	2		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3 くらいが 利用者の1 / 3 くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3 くらいが 利用者の1 / 3 くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3 くらいが 利用者の1 / 3 くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3 くらいが 利用者の1 / 3 くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2 / 3 くらいと 家族の1 / 3 くらいと ほとんどできていない	1		
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	1			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3 くらいが 職員の1 / 3 くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3 くらいが 利用者の1 / 3 くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2 / 3 くらいと 家族等の1 / 3 くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取 り 組 み の 成 果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。